



NO.443

R6年7月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

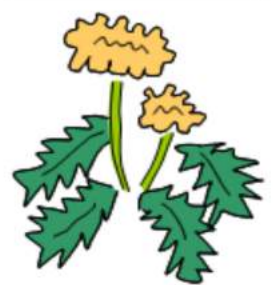
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



令和6年度業務指針

理事長 松田 健

令和5年度は感染症の対応に追われた一年でした。コロナ感染、コロナでもインフルでもない感染症、インフルエンザA型の感染と年に3回のクラスター感染を経験しました。3回目の

感染は年末年始だったため職員
の配置人数が少なく、三気の里
の歴史上最大の危機だったといっ
ても過言ではありません。スタッ
フへ「助けてほしい」と呼びか
けたところ多くの方が駆け付け
て援助してくれました。利用者
の方も重症化することなく回復
していき、ホッと胸をなでおろ
しました。未曾有の体験をしま
したが、みんなの力で乗り越え
ることができました。感謝申し
上げます。

コロナ感染症が日本に入っ
てきてコロナに翻弄された3年が

過ぎ、5類となりマスクも自由
ですと言われました。しかし、
感染症が流行する限り元の生活
には戻れないのが施設生活であ
ると思います。制限は今でもあ
ります

一方において活動が低下する
と体力、抵抗力は落ちていきま
す。悪循環に陥ります。また、
気持ちの停滞化が一番恐ろしい
と思います。ハラハラ、ワクワク
、ドキドキしない生活は面白
くありません。変化を好まない
人がいるのは事実ですが一般的
に考えて私たちがそうであるよ
うにワクワクする生活は必要で
あり、準備しないとイケないと
思います。みんながワクワクす
る生活を送れるような1年にし
たいと思います。

マンネリ化した生活がどれだ
けきついかコロナ禍で私たちは
体験しました。施設のオーバー

ワークを推進するつもりはあり
ません。時間外労働に対して時
間外手当を支給するのは当然だ
と思っと思っています。しかし、いま
私たちは何をすべきかを模索し
ていきたいです。みんなで企画
を出し合い、みんなで運営して
いきたいと思っています。

二年前の話ですが、親御さん
は早く施設内に入りタンスの中
をみてみたいとおっしゃってい
ました。我が子がどんな生活を
しているか見てみたいと。親御
さんがそのように思っておられ
るということは支援者の視点で
はなかなか気付きません。私も
そうです。安易に用いられてい
る「寄り添う」という言葉の真
意を理解する鍵となると思いま
す。

侵略行為の報道も当たり前と
なり、日々何も感じなくなっ
ている私たちがいます。石川県の

地震もわかりです。熊本地震で
助けてもらったのに寄付するこ
ともためらってしまっていない
でしょうか。今後どんな世の中
になるのでしょうか。コロナの
影響は薄れてくると思います。
日常へ移行していきたいと思っ
ます。しかし、戻れないことも
あるかと思えます。見定めて、
議論しながら進めて行きまし
ょう。スタッフの皆さんの力が必
要です。いま隣の席にいる方と
はすごい確率で隣り合っていま
す。手を取り合って利用者さん
のため、三気の会のために頑張っ
ていただけると幸いです。

関係機関（地域等）の皆様
のご理解とご協力によって三気
の会は成り立っています。今後も
何卒よろしく願います。





7月



『1班の宝物』

1班は、天気、気候に関係なく、日々全集中で皆さん作業を頑張っています。主な作業内容は、20年近く変わらず車部品のパッキン取り付け作業と、トマトパックの表面に生産者のシールを貼る作業です。1班には作業に関する沢山の宝物があります。前回の1班ニュースでもお知らせしましたが、新しい利用者の方が来ると、その人にあった製品の自助具を班スタッフ総出で作るという伝統(?)があります。過去には、DIYして作った自助具もあります。個々の力加減、馴染みややすさ等考えながら、使ってみて合わなければさらに改良もしています。もちろん、自助具との相性もあるようで、相性が悪い時は最初から作り直しです。ずっと使用する方もいれば、1ヵ月で自助具卒業!という方もいます。色々な自助具の段階を乗り越えて、新しい利用者の方が、自助具なしで作業に取り組んでいるのを、みなさん懐かしそうに優しいまなざしで陰ながら応援しています。そんな過去からの沢山の自助具が、1班の作業棟の押し入れには沢山あります。それが1班の宝物です。

生活支援員 原田直美

『雨の慕情』

園庭では今咲きほこる紫陽花が雨にうたれ、色が美しく映える頃となりました。窓の外を眺め「♪雨々ふれふれもっと降れ、私のいい人連れてこい…」とAさんの歌声に一瞬作業の手が止まります。身振り手振りをする人、瞳が輝く人、表現は様々です。私の勝手な想像ですが、八代亜紀さんのお姿とその当時を思い出された様子でした。午前中の作業はとても大切で、頭を使い、手先を動かし、その疲れが質の良い睡眠へと繋がります。すっきりとした朝を迎えられるように支援を行っています。新年度当初は担当スタッフの変更もあり、利用者さんにとって緊張と不安の中でしたが、漸くすると受け入れができて日常に戻りつつある2班です。

先日、スタッフ室に一冊のアルバムが届きました。淡い色の着物姿は上品でとてもお似合いのBさん、W成人おめでとうございます。今年も自治会役員、よろしくお願ひします。心も滅入る雨の毎日ですが、晴れ晴れとなる出来事でした。

生活支援員 牛島真由美



『ジャガイモ掘り』

爽やかな風が吹き抜け、青々とした空の下、絶好のジャガイモ掘り日和だった6月3日。三班の畑に外作業メンバーが集まり、ジャガイモ掘りを行いました。

畑へ出る下準備として、作業着に着替え、軍手、軍足、帽子を着用し、長靴に履き替える一連の流れは三班さんにとってはお手のものです。今年で73歳のFさんはみんなの応援と指示出し係です！準備も整い、畑へ出ると眩しいくらいに生い茂ったジャガイモの葉が、沢山の収穫を期待させます。スタッフが掘り起こした所から、拳大のジャガイモがゴロゴロと出てくると、みなさん一斉にコンテナへとジャガイモを仕分けしていきます。どんどん先に進んで掘っていく方、みんなが掘った後の場所を入念に見ながら取り残しがないか慎重に進まれる方、みなさん収穫の仕方も様々です。見事に畑半分コンテナ2杯分のジャガイモを収穫し、家族会で販売する事ができました。残り半分。みんなの力を合わせて収穫します！

生活支援員 小林奈央



『ささの葉さらさら♪』

今年も七夕の季節がやってきました。4班では毎年、創作クラブや作業の空き時間で七夕飾りの作成を行っています。ハサミで切る、ノリを付ける、折り紙を折る等、それぞれが得意な作業工程に分かれて取り組んでもらいます。折り紙が好きなAさんはスタッフと一緒に難しい飾り作りに挑戦。カラフルな折り紙で色鮮やかな花が出来上がると「綺麗ですね。」と嬉しそうにされます。短冊を書くのが楽しみな利用者さんが多い中、願い事が多いBさんはいつも何を書こうか悩むところから始まります。一文字一文字丁寧に、願いが叶うように思いを込めて書き上げたものを、出来るだけ高く、空に近い場所に括りつけます。笹が飾り付けられた後、自分の作った飾りや短冊を探す瞬間も皆さんの楽しみのひとつです。「これは僕が作ったんだ！」「これはわたし！」「〇〇って書いたよ。」といろんな方が教えてくださいます。

今年は七夕の日が無事に晴れ、利用者の皆さんの願い事が一つでも多く叶いますように…。

生活支援員 植野 希

『余暇時間』

Aさんはプロレスが好きな方です。そのためAさんは、余暇時間にDVDプレイヤーを使用して動画鑑賞されています。数ヶ月前の事です、グランメッセにプロレス観戦に一緒に行かせてもらいました。試合中、両手を口元に当て「行け～」や「魅せるね～」など、Aさんらしい声援を送り観戦されており、今もその光景が忘れられません。

そんなAさんですが、最近Aさんとテレビを観る時間が増えたことから、歌番組が好きだということを知ることができました。クイズ番組の時は少し周りが気になる様子が見られますが、歌番組の時は、テレビを真剣な表情でじっと見ていらっしゃいます。少し昔の曲が流れると「懐かしいね～」と言われたり、米米CLUBが映ると「米クラブ石井」と話されAさんの新しい一面を知ることができました。今後も、余暇時間を利用者さんにとっても私にとっても有意義な時間にしていきたいです。

生活支援員 北岡 哲

療育雑記

「SPELL」

業務課長 本田誠

SPELLとは、英国自閉症協会が提唱している自閉スペクトラム症支援のための5つの基本理念のことです。それぞれの頭文字をとって「SPELL」と言います。今回は、三気の里の支援のEピソードと合わせて書かせて頂きます。

先ず、Structure(構造化)ですが、情報をわかりやすく提示するという内容です。先日、Aさんのスケジュールボードを新たに作成しました。Aさんは、三気の里での生活も長く通常の日課は理解できています。しかし、当日誰(スタッフ)と活動するのかをとても気にしており、スタッフによっては周囲の物や音声に過剰反応してしまい、できることもできない状態に陥ってしまいます。今回は、一日の活動内容とその活動を誰と行うのかについて提示しました。活動内容の横にスタッフの顔写真を

配置したのですが、本人には伝わりませんでした。自己紹介形式で顔写真と実体をマッチングする作業を挟むことで、次からは写真のみで理解する様子が見られました。この経験を通して、スタッフ目線での提示では意味がなく、提示後の本人の反応や様子から理解度や安心度を確認するなど、利用者目線での提示が必要であるということを確認しました。

次にPositive(肯定的)ですが、物事を肯定的に伝える、自己肯定感を高めるという内容です。三気の里では、作業や集団活動への参加を積極的に取り入れています。その際、大事にしていることが、成功体験で終えるようスマートフォンステップを設定することです。4月より、利用を開始したBさんですが、集団活動への参加が苦手な方です。作業に對してはとても意欲的である反面、手先の不自由さから精度は不十分でした。ストレッチスである作業への意欲に着目し、担任のスタッフが手先の不自由さをフォローするBさん専用の補助具を作成しました。Bさんは

勿論ですが、作成したスタッフもドヤ顔であり自己肯定感が高まった様子でした。利用当初は心配された集団活動への参加に對しても、今ではストレッチスを活かし抵抗が軽減されています。

続いてEmpathy(共感)ですが、相手の特性を理解し共感することです。荒々しい行動や言動で自分の気持ちを表現する方がいますが、一見にとらわれ過ぎず、行動の背景を理解し共感するよう努めています。月2回ケース会議が行われますが、偏った見方や考え方に陥らないよう先輩スタッフの経験と新人スタッフの気付きを大切にしています。

そして、Low arousal(穏やか)ですが、三気の里の利用者さんは、感覚が過敏な方が多くいます。感覚過敏と言っても、一人ひとり過敏な反応を示す対象や度合いが異なる為、まずは相手度合いを理解することに努めています。作業能力の高いCさんですが、作業中にも関わらず人の動きや物の位置(動き)が気になり作業に集中できない状態でした。改善に向けて、作業前

にマッサージなどのリラクゼーションを行うと表情がとても緩みました。普段は椅子に座って作業に取り組んでいたのですが、当日はセラピーマットの上に座った状態で作業をスタートしました。目線の高さが変わるだけで、周囲を気にする様子が軽減されていました。刺激の低減に向けて、固定観念にとらわれないことの重要性を学びました。

最後にTrust(繋がり)ですが、チームで一貫したサポートをすることです。チーム内での情報の共有が重要となりますが、私たちはつい支援内容の統一ばかりに目を向けがちです。しかし、より重要なことは支援に対する利用者さんの反応を共有することだと思えます。利用者さんの反応を共有することで、支援の見直しに重きが置かれ、より利用者さん目線の支援に変わっていくと思うからです。

今回はSPELLについて書かせて頂きましたが、学ぶこと、やるべきことが多く残っています。今後、より利用者さんの目線に立った支援を提供できるよう努力していきます。

看護師便り

「健康寿命をのばすために」

看護師 小崎栄之

私は昨年9月メニエール病になり、1週間入院しました。病気には無縁であると自負する程、健康には自信がありました。思いがけない入院となりました。

メニエール病は、10年前までは難病に指定されていた病気で、社会復帰が困難な方も多くいらっしゃいます。私は、ストレスを減らし、生活習慣を整え、少しずつ良くなることを信じた結果、幸い再発することなく現在に至っております。

常々、病気は治療ではなく、予防が最も重要であると思っております。日本人の死因は1位が心臓、2位心疾患、3位老衰、4位脳血管疾患となっており、老衰以外は予防により防ぐことができる可能性があるとされています。生活習慣や食生活の改善などが効果的です。

また、日常生活が制限されることなく生活できる健康寿命をのばすためにも、日常の運動を習慣にすることが有効であるといわれています。今回、私が予期せず病気になった反省をふま

え、利用者様や皆様に予防医療の重要性をお伝えしたいと思いをしました。
私は、大病をしたことで病気の苦しさ、不自由さ、そして健康であることの有り難さを身をもって感じました。
看護師として働けることの喜びをかみしめ、利用者様に寄り添う医療の提供ができるように心がけていきたいと思えます。



スタート会

「スタート会」

主任 小城崇

6月21日、三気の里での令和6年度最初の大きな行事であるスタート会を行いました。昨年は大雨で大変だったのですが、今年は晴れ間もあり、利用者の方々の足元も濡れずに会場まで行くことができました。会場であるホテルサンクラウン大阿蘇さんに到着すると、エントランスのピアノに興味津々の方、御自身の席に着くと置かれている『しおり』をまじまじと見られる方、今年は何んな開会の映像が流れるのか楽しみにされている方等、皆さんそれぞれのご様子が見られました。イサキの西京焼き、豚の角煮、牛ステーキ、ちらし寿司等のお食事も気になる場所ですが、各グループの出し物や余興を楽しまれている方が多く、特にスタッフと一緒にアートのパフォーマンスを披露して頂いたAさんには、会場の皆さんから盛大な拍手が送られていました。皆さんが楽しまれたうえで、新年度のスタートを切る事ができたことに、改めて感謝を申し上げます。



7月スケジュール

05 (金) 芸術クラブ、アンパ創作活動
 06 (土) わっふる講演会
 「発達障がいの家族支援について」
 13 (土) 施設職員ミニバレーボール大会
 18 (木) 嘱託医来診
 19 (金) 夏祭り、アンパの日
 23 (金) ~24 (水)
 強度行動障害支援者研修

26 (金) ゴールドクラブ
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE
 <営業時間>9:30~17:30



betree314

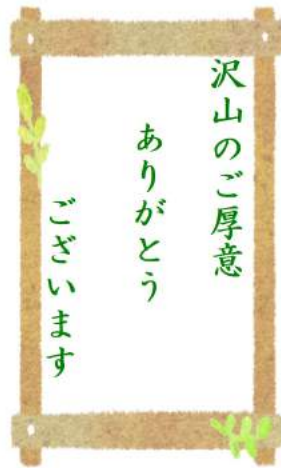
研修課

課長補佐 森田康之

研修課の今年度のテーマは「研修革命」少し大きく出てしましましたが、名前負けしないように、より有意義かつ有効的な研修の企画、運営を行っていきたく考えています。

今回は今年度から取り組み始める職員研修のひとつについて少しお話しさせて頂きます。明確なネーミングは浮かんでいないのですが、この研修の内容をご説明します。経験年数を基に新人職員、中堅、ベテランと3つのグループを作ります。各経験年数に応じて、必要かつ三気の里のチーム力を高める人材になる為の知識や姿勢を向上させることを目的としています。管理職が講師として、半期に1度実施するのですが、今期の共通のテーマは「伝える」です。新人職員には報連相の重要性を中心に、中堅職員には現場の中核リーダーとしてチームで仕事を

する為に必要なことを中心に学ぶ予定です。研修を通して、より広い考えや視野を持ち、少しでも前向きで、フラットな気持ちで現場に臨めるように努めて行きたいと考えています。



【寄付物品】

柴田 博子様 渡邊 京子様
 牛島 智子様 小牧 博則様
 赤星 一郎様 赤星 央子様
 児玉 静子様 財津 睦人様
 林 千莎子様 井手上 昌子様
 岩切 美佐子様
 くまもと産業医サービス様

【寄付】

松村 俊介様 松枝 英子様

【後援会】

藤野 元嗣様 木下 祐一様
 日置 政宏様 森木 美樹様
 中島 佐代様 水田 妙子様
 坂梨 清美様 村上 耀介様
 西村 栄子様 牛島 智子様
 松枝 由香様 松枝 英子様
 亀崎 和子様 亀崎 憲様
 白井 桂子様 森 聡章様
 須加原 翠様 森川 マサミ様
 林 千莎子様 井手上 恭子様
 ダイハツ大津様
 (有) 本田硝子様

編集後記

7月のカラーは、梅雨明け後の夏の青空をイメージしてブルーにしました。

最近の夏は、昔では考えられない程の猛暑になり、過ごしづらくなりましたが、夏生まれの私には、やはり大好きな季節です。

吉田理江